



FUJIKURA COMPOSITES

INTERIM BUSINESS REPORT

2022

第143期 中間報告書
2021年4月1日～2021年9月30日

先が見えない時代の中で 事業展開の柔軟性を保持しつつ前進し 持続的成長を実現してまいります。



代表取締役社長 森田健司

日頃は格別のご支援を賜りお礼申し上げます。

ここに当社グループ（当社および連結子会社）の第143期第2四半期（2021年4月1日～2021年9月30日）の事業の概況と業績についてご報告いたします。

Q1 上期を振り返り、営業状況について お聞かせください。

上期の営業状況は、当社グループの売上高の約6割を占める産業用資材セグメントの工業用品部門が自動車関連・住宅設備関連の需要回復を受け、受注が大きく伸びたことなどにより、期初の予想を大幅に上回る成果を上げました。特に自動車関連の受注は、昨年の7月・8月を底として以後急回復し、それが当期に入っても継続しており、当社グループの生産拠点は、現在フルキャパシティで稼働しています。工業用品部門と同じく産業用資材セグメントに属する制御機器部門も、半導体・液晶関連の設備投資が拡大する中で好調に推移しました。

大きく伸長したもう一つの部門は、スポーツ用品セグメントに属するゴルフ用カーボンシャフトです。米国モデル「VENTUS」の好調に加え、今年9月に発売した日本モデル「SPEEDER NX」も自社ブランド製品の販売拡大に寄与し

ました。また、アフターマーケット用ゴルフシャフトなど、比較的利益率の高い製品群が好調であったことが増益に寄与しました。

一方、引布加工品セグメントは、自動車及び電子関連の引布部門や印刷材料部門において増収・増益を遂げたものの、加工品部門における舶用品の低迷が響き、営業損失を計上しました。

内部施策では、原町工場（福島県）に昨年設置した生産技術センターを中心に製法・工程を改善し、それを海外工場に展開する取り組みが効果を上げています。検査工程の自動化も生産効率の向上をもたらしました。

以上により上期の連結業績は、前年同四半期比31.6%増の売上高を確保するとともに、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益も大幅増益となりました。

なお、売上高・営業利益及び経常利益につきましては、四半期単位で過去最高を達成しております。

Q2 中期経営計画にもとづく取り組みは いかがですか？

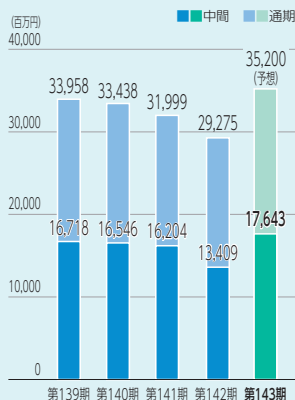
第6次中期経営計画「TRANSFORM」（2020年度～2024年度）は、計画前半を回復期の「フェーズ1」、後半を成長期の「フェーズ2」と位置付け、回復期を通じてコロナ禍の影響を克服した後、成長期において「攻め」に転じるロードマップを描いています。

しかし「フェーズ1」の始動から1年半が経過した現在、コロナ禍の影響を受けた市場は、計画策定時の想定を超えて急回復し、当社グループの業績も極めて順調な改善を遂げています。

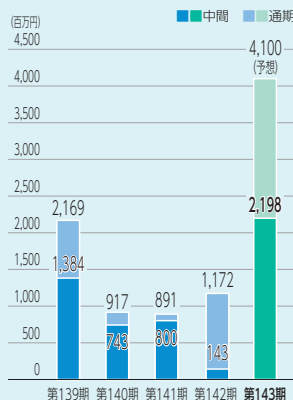
計画にもとづく重点戦略は、この1年半で着実に進展しており、引き続き取り組みの強化を図ります。

10年先の自動車関連市場を見据え、工業用品部門の今後を拓いていく「次世代自動車プロジェクト（NEP）」は、今年4月に「NEP推進室」として組織化し、展開を加速しています。技術開発面では、自動車メーカーとの共同開発案件が進行しており、またEV化に伴う急速な市場変動に対応してまいります。

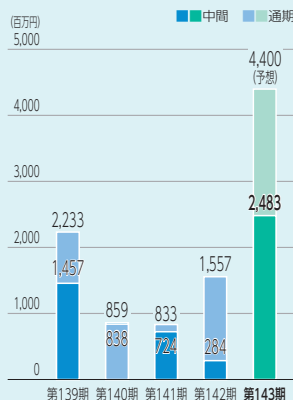
連結売上高の推移



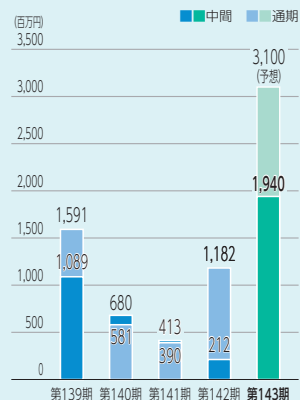
連結営業利益の推移



連結経常利益の推移



親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益の推移



制御機器部門では、原町工場内にクリーンルームを備えた新LIM棟を設置し、医療用ゴム製品の拡大に向けたサンプル提供や量産体制の構築を進めています。当期は、コンサルタントを入れた医療機器メーカーへのアプローチにより、市場開拓に本腰を入れていきます。

スポーツ用品部門では、ゴルフ用カーボンシャフトを通じて培ったCFRP（炭素繊維強化プラスチック）による製品開発に注力しています。軽量化が求められるドローン機体フレームへの応用の他、次世代自動車への採用につながる可能性もあり、部門横断的なプロジェクトとして展開していく考えです。

Q3 下期の展望と通期業績の見通しを ご説明願います。

下期においては、老朽化した工場の修繕に伴う費用増や、原材料価格の上昇による一定の影響が生じながらも、需要拡大による増収の流れは、第3四半期以降も継続しており、堅調な業績を維持する見込みです。

産業用資材セグメントでは、工業用品部門・制御機器部門ともに引き続き好調に推移すると見ており、スポーツ用品セグメントでは、「SPEEDER NX」の投入効果のさらなる拡大が期待できる状況です。

以上を踏まえて通期の連結業績は、従来の予想数値を上方修正し、売上高352億円（前期比20.2%増）、営業利益41億円（同249.8%増）、経常利益44億円（同182.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益31億円（同162.1%増）を想定しています。

Q4 株主の皆様にお伝えしたい メッセージをお願いします。

おかげさまで当社グループは、今年10月に創業120周年を迎えました。これまでの成長・発展を支えていただいた株主の皆様への感謝を込め、このたびの中間配当は、普通配当1株当たり8円に記念配当同2円を加え、同10円として実施させていただきました。期末配当については、同8円を予定しており、当期の年間配当額は同18円（前期比6円増配）となる見通しです。

なお、東京証券取引所が2022年4月に予定している新市場区分への移行に際し、当社は「プライム市場」を移行先市場として選択し、手続きを進めています。コーポレート・ガバナンスの拡充をはじめ、同市場に求められる高度な基準をクリアし、株主・投資家の皆様の信頼と期待に応えるべく、体制を整備していきます。

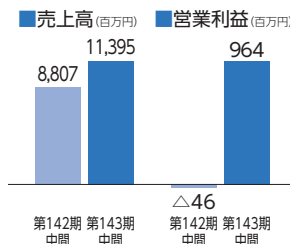
「VUCA（変動・不確実・複雑・曖昧）の時代」と呼ばれる今、企業は先が見えない中で何をやっていくかを問われています。私たちは、これまでの堅実経営で培ってきた資産を将来の力に変え、事業展開の柔軟性を保持しつつ前進し、持続的成長を実現してまいります。



64.6% 産業用資材

工業用品部門は、自動車関連・住宅設備関連ともに世界的な需要回復により、引き続き国内外において販売が好調に推移し、設備稼働率が大幅に向上したため増収増益となりました。制御機器部門は、半導体・液晶関連の設備投資が好調を維持し、医療関連も堅調に推移し増収増益となりました。

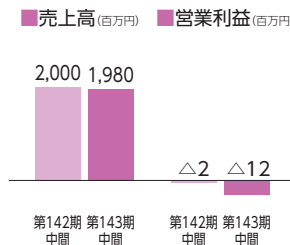
この結果、売上高は113億9千5百万円(前年同四半期比29.4%増)、営業利益は9億6千4百万円(前年同四半期は営業損失4千6百万円)となりました。



11.2% 引布加工品

引布部門は、自動車及び電子関連で回復基調が継続し、増収増益となりました。印刷材料部門は、輸出の受注回復があり、また生産体制の見直しを行った結果、増収となり損失が縮小いたしました。加工品部門は、電力関連向けは比較的堅調に推移しましたが、舶用品の国内市場向けが低迷し、減収減益となりました。

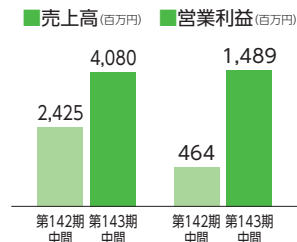
この結果、売上高は19億8千7百万円(前年同四半期比1.0%減)、営業損失は1千2百万円(前年同四半期は営業損失2百万円)となりました。



23.1% スポーツ用品

ゴルフ用カーボンシャフト部門は、好調が続く米国モデル『VENTUS』に加えて、新ブランドとして発売開始した日本モデル『SPEEDER NX』においても、ツアープロ使用率が高まったことで一般ユーザーへの認知が広がり、自社ブランド商品の販売が好調に推移し、増収増益となりました。アウトドア用品部門は、長期化した緊急事態宣言や天候不順等の影響を受けたものの、大都市圏近郊においてハイキング用品などのネット販売が伸長し、増収増益となりました。

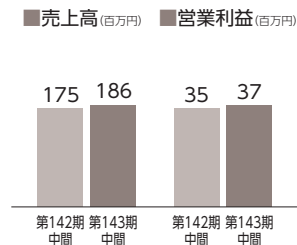
この結果、売上高は40億8千万円(前年同四半期比68.2%増)、営業利益は14億8千9百万円(前年同四半期比220.4%増)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は3百万円減少し、営業利益は1百万円減少しております。



1.1% その他

運送部門は、前年度のような主要顧客の休業等のコロナ禍の影響もなく、堅調に推移しました。物流部門も、倉庫関係の運用が引き続き堅調で増収増益となりました。

この結果、売上高は1億8千6百万円(前年同四半期比6.0%増)、営業利益は3千7百万円(前年同四半期比5.2%増)となりました。



TOPIC 1

フジクラシャフト新商品のご案内 『SPEEDER NX』誕生。

新製品

2014年の発売以来、特に国内女子ツアーでの高い使用率を誇り、多くのゴルファーから定評のある「Speeder EVOLUTION(スピーダーエボリューション)」シリーズのラインナップを大幅にリニューアル。新たなシャフトブランド『SPEEDER NX(スピーダーエヌエックス)』として9月に発売し、ご好評いただいております。

新ブランド『SPEEDER NX』は、フジクラシャフト独自の3次元モーションキャプチャシステム「enso(エンソ)」で長年蓄積した膨大なデータから最適解を導き出し、さらに従来のEI分布に緻密にコントロールされたトルク分布を組み合わせる設計技術「VTC(ヴィティーシー)」を採用することで、2次元から3次元設計に進化いたしました。

中調子の振りやすさと高初速・高弾道の両立を実現した、これまでの常識を覆す革新的なシャフトとなっています。さらなる可能性を秘めた『SPEEDER NX』でネクストステージへ。



商品情報の詳細は、HPをご覧ください。
<https://www.fujikurashaft.jp/>

フジクラシャフト

検索

カチッ



TOPIC

2

CSR報告書を発行いたしました。

CSR

CSR報告書は、当社の企業理念と事業の現状及びCSR活動の年次報告書として、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを推進することを目的に発行しております。

今年度より環境報告書とあわせて、且つガバナンス体制やSDGsとの関連などを盛り込み、よりESGの視点に基づき皆様にわかりやすい報告書としております。

当社のCSRの取り組みにつきましては、HPをご覧ください。

<https://www.fujikuracomposites.jp/focus/>



TOPIC

3

福島県南相馬市で海ゴミゼロプロジェクトに参加いたしました。

環境

プラスチックごみをはじめとした海洋ゴミ問題が世界中で深刻化しています。この問題に早急な対策を図るため、環境省を中心に全国一斉清掃活動が推進されています。

当社ではこのたびCSR活動の一環として、福島中央テレビ主催による南相馬市鳥崎海岸におけるゴミ拾いイベントに参加いたしました。本清掃活動により2tトラック1台分のごみが集まり、綺麗な砂浜が甦りました。

今後も持続可能な社会を目指し、積極的に環境貢献活動を行ってまいります。



連結財務諸表 Consolidated Financial Statements

■ 四半期連結貸借対照表 (要旨)

科 目	期 別	当第2四半期末 2021年9月30日現在	前期末 2021年3月31日現在
資産の部			
流動資産		22,365	20,707
現金及び預金		6,465	5,780
受取手形及び売掛金		10,352	9,698
商品及び製品		1,936	1,854
仕掛品		2,391	2,174
原材料及び貯蔵品		783	695
その他		516	557
貸倒引当金		△80	△53
固定資産		14,188	14,168
有形固定資産		11,966	12,117
無形固定資産		108	123
投資その他の資産		2,113	1,927
資産合計		36,553	34,875

(単位: 百万円)

科 目	期 別	当第2四半期末 2021年9月30日現在	前期末 2021年3月31日現在
負債の部			
流動負債		7,269	7,981
固定負債		1,901	2,074
負債合計		9,170	10,056
純資産の部			
株主資本		26,448	24,672
資本金		3,804	3,804
資本剰余金		3,212	3,212
利益剰余金		19,452	17,676
自己株式		△20	△20
その他の包括利益累計額		934	147
純資産合計		27,383	24,819
負債純資産合計		36,553	34,875

■ 四半期連結損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	期 別	当第2四半期 (累計) 2021年 4月 1日から 2021年 9月30日まで	前第2四半期 (累計) 2020年 4月 1日から 2020年 9月30日まで
売上高		17,643	13,409
売上原価		12,528	10,365
売上総利益		5,114	3,044
販売費及び一般管理費		2,916	2,901
営業利益		2,198	143
営業外収益		312	238
営業外費用		27	97
経常利益		2,483	284
税金等調整前四半期純利益		2,483	284
法人税、住民税及び事業税		542	101
法人税等調整額		0	△ 29
四半期純利益		1,940	212
親会社株主に帰属する四半期純利益		1,940	212

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	期 別	当第2四半期 (累計) 2021年 4月 1日から 2021年 9月30日まで	前第2四半期 (累計) 2020年 4月 1日から 2020年 9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,824	1,390
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 180	△ 812
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,253	△ 157
現金及び現金同等物に係る換算差額		294	△ 86
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		685	334
現金及び現金同等物の期首残高		5,780	5,528
現金及び現金同等物の四半期末残高		6,465	5,862

会社概要 (2021年9月30日現在) Corporate Data

■ 会社概要

創 業 1901年 10月
資 本 金 38億 429万円
従 業 員 数 連結 2,632名
単体 756名

■ 役員

代 表 取 締 役 森 田 健 司
取 締 役 社 長
常 務 取 締 役 金 井 浩 一
常 務 取 締 役 高 橋 秀 剛
取 締 役 弓 削 千 賀 志
取 締 役 (社 外) 長 浜 洋 一
取 締 役 (社 外) 佐 々 木 聡
常 勤 監 査 役 植 松 克 夫
監 査 役 (社 外) 細 井 和 昭
監 査 役 (社 外) 田 中 響 子

● 取締役 長浜洋一及び佐々木聡並びに監査役 細井和昭及び田中響子の各氏を、東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員として同取引所に届け出ております。

■ 子会社 (*:連結対象)

会社名	国名	主要な事業内容
* 株式会社キャラバン	日本	アウトドア用品の販売
* 藤栄運輸株式会社	日本	運送事業
* Fujikura Composite America, Inc.	米国	ゴルフ用カーボンシャフトの販売
* FUJIKURA GRAPHICS, INC.	米国	印刷用ブランケットの販売
* IER Fujikura, Inc.	米国	工業用ゴム製品の製造販売
* 杭州藤倉橡膠有限公司	中国	工業用ゴム製品の製造販売
* 安吉藤倉橡膠有限公司	中国	工業用ゴム製品の製造販売
* FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, INC.	ベトナム	産業用資材、引布加工品及びゴルフ用カーボンシャフトの製造
株式会社藤加工所	日本	救命筏、産業資材の製造
株式会社アールアンドアールフジクラ	日本	ゴルフクラブのリシャフト・フィッティング
株式会社藤光機械製作所	日本	産業用精密部品の製造
株式会社福島キャラバン	日本	アウトドア用品の流通
株式会社アイオス	日本	精密金属加工
Fujikura Composites Korea, Co., Ltd.	韓国	工業用ゴム製品、制御機器、アウトドア用品の販売
Fujikura Composites Europe B.V.	オランダ	印刷用ブランケットの販売
藤栄サービス株式会社	日本	障害者雇用を目的とした特例子会社

■ 当社グループ主要製品及び商品

工業用品

ダイヤフラム、BFダイヤフラム、シール部品、精密部品、アンブレラ、ダックビル、防振ゴム、水ガバナ

制御機器

各シリンダ、レギュレータ（減圧弁）、流量調整弁、チェック弁、リリーフ弁

電気材料

超低硬度材料、各種機能性テープ、常温収縮チューブ、導電・絶縁材料、風力発電機用ブレード保護シート、マグネシウム空気電池

引布

ゴム引布、極薄ゴムシート、接着・粘着処理、ラテックス

印刷材料

印刷用ブランケット

加工品

船舶用救命設備、航空機用救命設備、コンサベータ、産業用資材

スポーツ用品

ゴルフ用カーボンシャフト、産業用CFRP製品、アウトドア用品

■ 当社事業所

本 社

〒135-0063 東京都江東区有明3-5-7 TOC有明

大阪支店

〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4

勝田営業所

〒312-0041 茨城県ひたちなか市西大島2-6-21

名古屋営業所

〒460-0011 名古屋市中区大須4-1-40

岩槻工場・エンジニアリングセンター

〒339-8510 さいたま市岩槻区上野6-12-8

原町工場

〒975-0027 福島県南相馬市原町区上北高平字植松268

加須工場

〒349-1158 埼玉県加須市新利根1-4-4

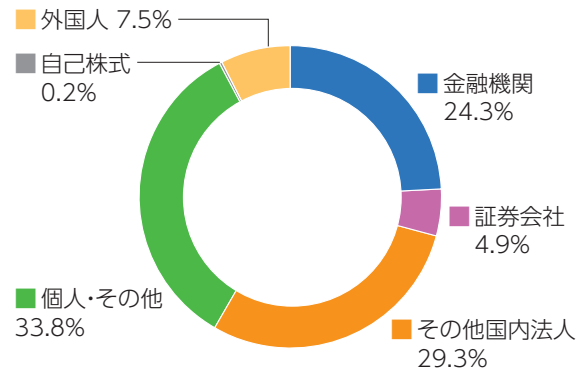
■ 株式の状況

発行可能株式総数 90,000,000株

発行済株式総数 23,446,209株

株 主 数 11,337名

■ 所有者別持株比率



■ 大株主の状況

株主名	持株数 (株)	出資比率 (%)
株式会社フジクラ	4,776,300	20.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,506,900	10.71
藤倉化成株式会社	569,840	2.44
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	545,300	2.33
藤倉航装株式会社	515,210	2.20
富国生命保険相互会社	450,000	1.92
三井住友海上火災保険株式会社	437,500	1.87
藤倉コンポジット従業員持株会	422,550	1.81
三井住友信託銀行株式会社	418,000	1.79
明治安田生命保険相互会社	400,808	1.71

出資比率は、自己株式49,624株を除いて計算しております。

株主メモ Stockholder Memo

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会の 議決権・期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日
公告掲載方法	当社ホームページ
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00 (土・日・祝日及び12/31～1/3を除く)

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されてしまった株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

*確定申告をされる株主様は、大切に保管ください。

藤倉コンポジット株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明3-5-7 TOC有明
(証券コード：5121)

アウトドア机上講座のお知らせ

山の奥深い魅力を味わえる
『ガイド同行の登山教室』の他にも、
(株)キャラバンでは無料でご参加いただける学びの
場となる『机上講座』を開催しています。
講師には公益社団法人 日本山岳ガイド協会
理事長(武川俊二氏)を迎え、
山の楽しみ方や季節に応じた対応知識など
様々なノウハウを学べる場をご用意しています。



お申込みはこちらから！

[https://www.caravan-web.com/
seminar_form/](https://www.caravan-web.com/seminar_form/)



この中間報告書は、当社のブランケットを
使用して印刷しております。

